



集中コース(秋)開催報告

『はるばる来ました!! 島根から』

ギリシャ生まれのイギリス人、ラフカディオ・ハーンはニューオーリンズでの新聞記者時代、取材先の万国博覧会で日本の文化に触れ、39歳の時に来日、その後松江尋常師範学校(現:島根大学)の英語教師となりました。この地で小泉セツと結婚し、日本に帰化し小泉八雲と改名しました。妻セツは日本語の読めない八雲のために民話や伝説を集めて、それを読み聞かせたそうですが、それがもとになり『耳なし芳一』や『つべらぼう』などが収め

られた『怪談』が生まれまし
た。こんな縁で、松江市と
ニューオーリンズ市は姉妹都
市提携をしています。
白砂青松の美しい海岸線を
持つ島根県で、ほかに思い浮
かぶのは、今年7月に現存天
守としては5番目の国宝に指
定された松江城、そして世界
遺産の石見銀山、神在月に
神々がつどう出雲大社、さだ
まさしとその情景を見て『案
山子』の歌詞に取り込んだと
いわれる津和野城跡など、見
どころは満載です。さらに素
戔鳴尊(スサノオノミコト)



危なげのないチェーンソーの扱い



スリングベルトとトビでかかり木の処理



枝払いも不可なく丁寧にこなす



切り株を見て伐倒具合の復習

が八岐大蛇を退治した出雲
では、今でも日本で唯一の
たたら製鉄が行われており、
日本刀などの材料として欠
かせない、刃物を扱う方に
は垂涎的、玉鋼の生産が
されています。『もののけ
姫』の世界ですね。
有名人では総理大臣時代
に消費税を導入し、世の中
の不評を買った(?)故 竹
下登(DAIGO)のおじい
ちゃんですね)を輩出して
います。『奥出雲おるちル
ー』やテレビCMにもなつ
た江島大橋(ベタ踏み坂)
などは彼の人の功績でしょ
うか。素晴らしい道が海岸
線に走り、きれいな橋が山
奥に懸けられています。ま

た超高級魚『ノドクロ』の市
価を更に高めた、日本が誇る
プロテニスプレーヤーの錦
織圭選手、や楽天の新監督に
就任した梨田昌孝監督、アラ
カン世代のマドンナ、竹内ま
りや(知ってる?)等々、つ
いに人口は70万人を割って
しまったようですがこの県
は人材が豊富です。
長い海岸線を誇るだけに、
多くの海産物にも恵まれて
いて、先述のノドクロ(標準
和名はアカムツ)のほか、松
葉ガニ、京料理の定番アカア
マダイ、大社縁結びのブリ、
宍道湖のヤマトシジミ等々
盛りだくさん。いいなあ、海
のある県は。
さあ、特に独身男女の皆さ
ん、『神々つどう』の『縁の国』
に一度は訪れるべきですぞ。
と、なぜ今号で島根県を紹
介したのかというと、参加者
の山本さんがはるばる島根
県から来てくださったので

す。塾の途中で島
根県に移住とい
う2013年の
滝川さんの例は
ありましたが、森
林塾々生参加の
都道府県のなか、
空白が一つ埋
まったからなの
でした。その山本
さん、立木の伐倒
は初めてという事でしたが、
なにせ呑み込みが早く、物覚
えも抜群で、動きにも無駄が
ない。チェーンソーの扱いも
全く危なげがありませんで
した。もう明日からでもプロ
として現場作業が出来るの
ではと、イントラ和泉さんも
感想を述べていました。小雨
の中のぶり縄登攀も難なく
こなされて、びっくり。こう
いう人もいるんですね。
ということ、地元浜田市
に戻られての山造り、よろし
くお願いします。そしてお隣

の益田市ご在住の滝川さん
ともども、石見の国の山造
り、頑張ってください。
集中コース(秋)
11月6~8日(金~日)
予定されていたもうひと
方のご都合が悪くなり、山本
さんのみのご参加でした。3
日目は雨で伐倒現場に出ら
れませんでした、その分
チェーンの目立てはしっか
り勉強出来ました。また、小
雨のなか、『ひっぱりだ』の
実演やぶり縄もかじってみ
ました。
参加者/山本さん
スタッフ/和泉、早川



登りも下りも危なげなく

次回以降の予定
通年コース第15・16回
11月27・28日(金・土)
炭焼き・山林見学
移動式炭化炉での炭焼き、
今年アカマツの炭に挑戦。
点火後は忘年会を兼ねて1
杯やりながら火の番です。
2日目、炭出しの後、保科
先生の山と信大演習林のヒ
ノキ山見学です。

リレー通信



はじめまして
山本 敏

私はこの度KOA森林塾集中コース(秋)を受講しました、山本 敏(やまもと さとし)と申します。41歳既婚です。よろしくお願います。

私は現在、島根県の西部、石見地方の浜田市に在住してあります。日本海と中国山地の自然に恵まれ、海のない長野県から見ると本当に贅沢なところだと思えます。

余談ですがざっと浜田の特産品を紹介しますと、まず「赤天」。浜田のお土産と言えませんがこれでしょう！浜田特製のねり製品で、タラを原料にトウガラシのピリピリ感、まぶしたパン粉のサクサク感、そして食感ほモチモチして独特の風味を醸し出しています。少し炙って酒のおつまみに最高っ！(好きな人は生でそのまま食べるそう)

次に「西条柿」。特徴はなんととってもその味と形で、干し柿やあんぼ柿(生果

と干し柿の間)がありいろいろな食感と味覚が楽しめます。浜田市三隅町の和菓子屋「三隅ようかん光明堂」では、この西条柿を練り込んだクリームを使ったロールケーキ「石見の舞」が作られています。珍しい和菓子が苦手な方のお土産にはピッタリかと思えます。

そして出ました「ノドグロ」!!浜田港で水揚げされる「ノドグロ」は浜田市の魚に制定されています。島根県松江出身のプロテニスプレーヤー、錦織圭選手が昨年の全米オープン男子シングルスで準優勝した後の帰国会見で「ノドグロが食べた

い。」と言っていました。浜田港で水揚げされる「ノドグロ」は、別の海域で育ったもの比べて脂がよく乗っているそうです。焼き、煮付け、刺身といろいろ食べ方はありますが私のおすすりはスバリ「焼き」!!脂がノッてとろけます。めっちゃくちゃ旨いです。浜田市三隅町「日本海酒造」のお酒と一緒に是非!!

次に甘党には「三隅羊羹」。小豆を薪で煮て、そして手練りによりつくられ、素朴な味が特徴です。そしてこの餡で作られた「兼連公最中」。上品な甘さ!あんこが苦手な人でもこれなら食べれる!!と絶賛された逸品です。浜田市三隅町三隅、浜田市役所三隅

支所前のメイン通りにある「光明堂」で作られています。お店はもちろん、国道9号線沿い道の駅「夕日パーク三隅」、「夕日パーク浜田」でも購入出来ますので、浜田のお土産に是非!!

最後に「利休饅頭」。浜田市の饅頭と言えはこれ。天皇陛下にも献上した由緒ある饅頭!!大抵の人はこれをお土産や遣い物にするのではないのでしょうか。黒糖餡で焼いても蒸してもアイスにしても美味しく食べられる、素朴で小さめの饅頭です。

私が生まれ育ったのは浜田市三隅町岡見(旧、那賀郡三隅町岡見)というところで、海に面した町ですが、実家のある板ヶ峠部落は山地の方で四方山に囲まれており、子供の頃から山や畑、堤(ため池)で遊んで育ちました。父が林業に携わっていたので、子供の頃は夏にセミ

やらカブトムシやらクワガタやらたくさん捕まえてきてくれて、毎日楽しみにしていた記憶があります。そんな山と共に育ってきた私ですが、やはり若かりし頃は「都会の生活」に憧れるもので、工業系の学校へ進み、そのまま現在、中国電力の関連会社で電気計装の技術職をしております。転勤があり、結婚して住居も浜田市内へ構えたので、実家へは田植えと稲

刈り、部落の草刈りを手伝いに行く程度になり、よく父が「山の境を教えとかにやあいけんのう」と口にしています。結局、父と山を一緒に歩くことはありませんでした。

そんな私が山仕事に目覚めたきっかけ、それは昨年父が他界したことにより、家の周りの手入れは父が全てやっていたので、病で歩くことも不自由になつた平成26年1月以降、冬の間はまだ良かったのですが春から夏にかけて家の周りが草木で藪状態となり、父がコマめに道草を刈つてきれいにしていた部落の生活

道も、草木で道幅が狭まり強風が吹けば木や竹が折れたり倒れたりして道を塞ぐ等、みるみる荒れていきました。またイノシシやクマが家のすぐそばへ現れるようになり、山は放っておけばこんなに早く荒れてしまふのかと、つくづく「山に入

の手が入る」ということの大切さを実感しました。それで、全て父が健在の時のように戻せなくとも、せめて一人で暮らす母が生活に困らないよう手入れをしようと思いついた次第です。幸い刈払機やチェーンソー、鋸、鉋、鎌、トビなど山仕事の道具は一通り父が遺してくれており、すぐに

でも山仕事は始められます。しかし刈払機は扱えるがチェーンソーの扱いは素人であり、安全に作業をするためにも基本的な山仕事のノウハウを学びたいと思いました。そこでインターネットで調べてKOA森林塾の存在を知り、かなり遠方ではありませんが3日間集中して受講出来ることに魅かれ、この度、集中コース(秋)を申し込みました。

ではこの度の「集中コース(秋)」で学んだこと、私が感じたことをざっとレポートします。長つたらしいので興味があれば飛ばし見してください。受講者は私一人でした(一人というのは過去にはないそうです)。講師は早川様、和泉様のお二人で、大変分かりやすく丁寧にご指導頂きました。

1日目の午前は林分調査の講義後、寺所有林を調査のため現地へ。10m四方のプロットを作り(傾斜の上下方向は傾斜分を考慮して10.5mとした)、全木17本の胸高直径計測、最も細い木(10cm)、中くらい(16cm)、最も太い木(20cm)の樹高をワイゼル測高器で計測しました。データを記録して森林診断書を作成、Sr17%、やや過密でした。10年後Sr18%とする施業指針を作成、ha当たり1700本、1069本、プロット内17本、10本と

しました。午後から受け口、追いの練習。丸太を立てたものを使って練習しました。伐倒方向にチェーンクで印を付け、水平切りのあとガイドバーを差してしっかりと当ててみて伐倒方向と直角になりは切り端を水平切りの端と必ず合わせることを、切り足して微調整しました(切りすぎはx)。赤いマジックで受け口の水平ラインをなぞって直角方向にラインを引き、それが伐倒方向と合っているか確認しました(ずれていれば受け口を修正)。追いの絶対には切りすぎないこと!つるを残すことが大切!!高さは自分が思った位置よりも実際には低くなるクセがあり気を付けました。

2日目の午前、まず和泉講師が手入れされている寺所有林(旧スキー場跡地周辺)の見学させて頂きました。立派なヒノキの林でいずれは寺の修繕に使うとのこと、目的があり施業された林とはこういうものなんだと感銘を受けました。その後1日目に林分調査したプロット内の間伐する木を選木しました(7本)。胸高直径が太い木を残して細い木を切る、と安易に考えず、太くても枯れている木、曲がっている木、枝が張りすぎて周りの木の

プロット内17本、10本としました。午後から受け口、追いの練習。丸太を立てたものを使って練習しました。伐倒方向にチェーンクで印を付け、水平切りのあとガイドバーを差してしっかりと当ててみて伐倒方向と直角になりは切り端を水平切りの端と必ず合わせることを、切り足して微調整しました(切りすぎはx)。赤いマジックで受け口の水平ラインをなぞって直角方向にラインを引き、それが伐倒方向と合っているか確認しました(ずれていれば受け口を修正)。追いの絶対には切りすぎないこと!つるを残すことが大切!!高さは自分が思った位置よりも実際には低くなるクセがあり気を付けました。

成長の妨げになってい
木(暴れ木)を選木するこ
とを学びました。1日目の
施業診断でプロット内17
本中7本間伐としたが、実
際の林分を見ると10本は
切ったほうが良いと言え
る木が見られ、机上の数字
にとらわれずこれを指標
として実際の林分を見て、
また10年後にどのような
山にしたいのかを考えな
がら選木することが大事と
感じました。「迷ったら切れ」
の教えもあると伺いました
が、選木とは難しいもので
す。

そしていよいよ、林分調査
した箇所からやや上り、ヒノ
キの伐倒練習を行いました。
1本目。伐倒方向は斜面左方
向。掛り木になるため予め牽
引ロープを括りました。アル
ミ製の木登り梯子を2段、安
全帯を付けて登り、ロープを
木に巻き結び(3回)で括り
ました。ロープは伐倒方向に
向けて垂らし、伐倒箇所付近
の滑車を通して、傾斜上方の
安全な場所で引つ張りませ
す。伐倒木周辺の灌木を切り作
業スペース確保、逃げる方向
を確認、伐倒方向を確認し受
け口を入れる箇所にチヨー
クで印を付けました。周囲へ
受け口を切ることを伝え、水
平切り始め。初めての立木伐
倒、印と直角に平行を意識
し、切足すつもりで深く切り



鳩吹公園は紅葉が真っ盛り

すぎないよう注意しました。
斜切りもやや手前へ、切足す
つもりでバーを入れました。
斜め切足しを行い、チェン
ソーを止めて受け口が伐倒
方向へ向いているか確認し
OK。周囲へ追い口を入れる
ことを伝えて切り始め。つる
を残すため追い口は絶対に
切りすぎないようにし、ある
程度バーを入れたら追い口
左右のバランスを確認。追い
口が開いてくるのを確認し
ながら切り進み、追い口が開
いてきたので牽引ロープを
引つ張るよう連絡。ロープを
引つ張り目標位置へ伐倒出
来しました。切り口を確認した
ところ、方向は良くつるも
しつかりと真っ直ぐ作れて
いたが、切りすぎを恐れ受け
口が小さすぎました(直径の
1/4〜1/5くらい)。も
う少しつるが中央に作られ
ば良かったです。
ここから造材練習。まず元
を玉切りします。斜面上方へ立

ち、挟まれないよう上から
バーを浅く入れて刃先を奥側
へ回します。次に下から刃先
を奥側へ回して手前を上げな
がら切るのですが、ここで途
中でバーを抜いてしまつて中
途半端に木が切れずに残つて
しまいました。バーを抜かず
切り続ければ木がバーを滑つ
て落ちてくれるので、以後気
を付け、そこから4m(+5
cm)くらいで玉切りまし
た。

次に枝払い。枝はガイド
バーの背で切る(腹で切ると
自分の足へ刃が行く)ことを
学びました。またガイドバー
を幹に預けながら切る、太い
枝や長い枝は途中で切つて2
段切りする、幹の下方で支え
になっている枝は残し太い枝
も後で手で持つて回せるので
残して後で切る、枝払いでは
チェンソーのハンドル位置を
自在に変えながら切る(同じ
ところばかり持たず軽く握
る)、といったことを学び、実
践出来ました。玉切つた幹は
土留めに使用しました。
午後から伐倒2本目。斜面
やや右下方へ伐倒方向を決
め、ロープは付けずそのまま
伐倒しました。受け口を作つ
た後、下に作りすぎて根張り
が邪魔になることが分かり、
追い口を作る前に根張りを落
として幹を丸くしました。追
い口を入れ、ここでも切りす
ぎないように少しづつ止めて確

認。梢の動き、追い口の開き
に注意しながら切り進め、
追い口の開きが分かり退
避!ここで必ずチェンソー
のエンジン切ることを注
意されました(忘れない!)。
ところが木は倒れ始めまし
たが、上方の枝が掛つてし
まいました。そこで幹を右
へ回して落とすべく、左の
つるを少しづつ切ること
にしました。ここで私が少し
ずつ削るようにチェンソー
を入れればよかったのです
が、スーツと平行に入れた
ためにガイドバーが挟まれ
てしまいました。木の荷重
がグツと左へ掛かつてしま
いなかなかガイドバーが抜
けず、講師の方に大変ご迷
惑をお掛けしましたが、試
行錯誤の結果、最終的には
挟まれたバーの上を別の
チェンソーで切り欠いて頂
き、何とか外せました。

この後、左へ回して落と
すこととし、ナイロンスリ
ングとトビで左回転の荷重
を掛けながら和泉講師によ
り右のつるを少しづつ削つ
て頂き、左へ回り始めたら
退避、掛つた木を落とす
ことが出来ました。林業の
死亡事故で最も多いのが掛
り木処理であり処理方法も
ケースバイケースで色々あ
りますが、とにかく一人で
処理するのは危険で、掛る
可能性があれば迷わずロー

プを括る等掛り木にならな
いような策を事前に講じる
ことの大切さが分かりまし
た。

この後、突っ込み切りを練
習。キックバックに注意して
バー先の90度下を使つて切
り口を入れそこから削り屑
が掻き出しやすいようやや
左右に振りながらバーを
突っ込んでいきます。玉切り
にも使えるということ、練
習させて頂きました。玉切
り、枝払いを行い、木は土留
めにしました。

休憩後、伐倒3本目。チル
ホールという牽引器具を
使つて伐倒することとし、や
や曲がつた癖のあるヒノキ
が選木されました。準備と
して、梯子1台を使つて登りワ
イヤロープを掛けます。こ
のワイヤーロープとチル
ホールのワイヤーの輪を「カ
ツオブシ」と呼ばれる棒を通
して引つ掛けて連結させま
す(これで2tonくらい引
けるそうです)。滑車を伐倒
方向付近の木に括り付け、伐
倒木近くの木にチルホール
をナイロンスリングで付け
ます。伐倒方向は滑車を付け
たマツのやや左に決めまし
た。受け口を作り、追い口を
切り始めます。チルホールで
倒すので、追い口は厚めに作
るよう注意を受けました。左
右のバランスを見て、チル
ホールを巻くよう連絡。伐倒

木の後方へ移動し、目標通り
に倒れるか確認します。少し
ずつ倒していく方向がずれ
ていけば追い口を調整する
ことになっていきましたが、私
は目標通りと判断してその
ままチルホールを巻いて倒
しました。しかし梢は滑車を
付けた木の右方へ。切り口
を確認すると、受け口の方向
が目標点ではなく滑車を付
けたマツへ向いていました。
私はこの受け口を切つた時、
一度目はマツの右方向を向
いていたため、切り足してマ
ツの左へ向けたのですが、精
度が悪かつたのです。追い
口、つるの方向は全て「受け
口」作りにかかっているこ
とがよく分かり、受け口作り
は安易に妥協せず、念には念
を入れて確認することが大
切と実感しました。

伐倒4本目。今度はロープ
なしでそのまま伐倒するこ
ととし、3本目と同じ方向へ
目標を設定しました。受け口
をしつかり確認して作り、追
い口を切つて口が開いたと
ころで退避したが倒れませ
ん。上方の枝が掛かつてい
ました。早川講師に助言頂
きクサビ1枚を追い口の中
央へ入れましたが、追い口の
奥をクサビが突いてしまい
効かず。再び早川講師の助言
により、クサビが入るスペー
スを作るため突っ込み切り
で追い口中央へバーを入れ

ました。するとあらら...そのまま木が倒れてしまいました。つるが両側残っていたので目標点へは倒れましたが、突っ込み切りを一気に入れすぎてつるの効きが弱まったようで、意図せず倒れ始めるのは怖いなと感じました。よく言われるクサビを八の字に2個人入れれば倒せたのかもしれない。

伐倒練習はこれで終了、集会所へ戻りチェーンソーのメンテナンスを学びました。エアクリナーの清掃やチェーンカバを外しての清掃、ソーチェーンの脱着は父の手伝いで経験がありました。チェーンソーの目立ては初めてでした。ガイドバーを固定するクランプと4mm丸ヤスリ、30度の角度が分かる補助具を使用して、ややチェーンを持ち上げる感じで同じ回数、真っ直ぐ平行に。言われることはよく分かりましたが、

実際やってみると、きちんと研げているか木を切ってみないと分からないので、何度もやってコツを掴む奥深さを感じました。

3日目はあいにくの雨天で、伐倒練習は出来ず...集会所での講義となりました。まず私の要望を聞いてくださり、やって見たかった「ぶり縄」による木登りをご教示頂きました。安全帯を必ず使用します。まず棒に縄が付いた方を左手に持ち、胸の高さくらいにの位置の幹に当てます。垂れた縄を後ろへ回し、棒の右側へ上から巻いて後ろへ戻し、左の棒へ戻します。左の棒の上から巻いてもう一度後ろへ回し、右の棒の上から巻いて後ろへ回して左の棒へ戻します。左の棒の上から巻いて下へ垂らし、足が掛けられる程の弛みを付けて右の棒へ上から巻きます。今度は幹の手前で8の字に右 左 右 左と2回巻きます。左に2本、右に1本のロープが垂れるのをこれを両手で各々握り、下へ引いてグッと効かせてから、弛んだ縄に足を掛けて登ります。両足を棒に乗



足を棒に乗

せてから安全帯を巻き、安全帯に体を預けて1段目の棒と同じ要領で2段目の棒を付けます。登るときは安全帯を外してから木を抱えながら登ります。2つ目の棒へ両足を掛け、安全帯を巻いて体を預けてから1つ目の棒の縄をほどいて棒を回収し3段目へ。降りるときは、棒の下で両足を前後に幹に絡ませ、両手で幹を抱えて足でブレーキをかけながら降ります。降りた後、幹に残った棒を回収します。15m程の縄があれば50〜60cm程の硬めで適当な木があれば簡単に出来、あまり太い木でなければ梯子を持ち歩かなくてもこれだけでかなり登れるので、本当に素晴らしい道具だと感心しました。

この後、このぶり縄で用いる縄の両端「アイスブライズ」作りを学びました。9mm麻ロープを使用し、棒の径を考慮してあまり大きな輪にはしません。縄の端を3回編み込める程度ほどいて3本に分け、真ん中を、左を、右を とします。適当な位置に を差し入れて少し右へ回し、を が出たところを一山越えて差し込みます。またすこし右に回してを一山越えて差し込み、これで1回。3回繰り返して余った縄は切る、焼く、テープを巻く等して処理します。私は

1回目の の処理で何度か躓いてしまいました。ここがきれいに出来れば後は同じことの繰り返しです。一見難しそうなおアイスブライスですが、コツが分かれば容易に出来るので、帰ってからもう繰り返して練習しようと思います。

次に、2日目に私が目立てたチェーンソーで玉切ってみました。長い木屑もありましたが全体にまだ細かく、デブスが高い可能性もあるとアドバイス頂き、改めて目立てを行いました。右から左から各々3回ずつヤスリを入れて、バーを立てて刃の状況を観察したところ、左からヤスリを入れるほうはいい形でしたが、右からヤスリを入れるほうはややバックスロープ気味であることが分かりました。左からの目立てはやめて、右からの目立てをやり直しました。今までヤスリを持ち上げ気味にしていたのですが、上刃を削りすぎているのでやや下へ押さえる感じでヤスリを入れるようにし、2周して左右の刃が同じような状態になりました。次にデブスゲージでデブスの高さを確認しました。殆どツラがやや高めと感じ、試しに全体を平ヤスリで3回ずつ削りました。これで目立てを終わり、改めて玉切りを試してみました。するとチェーンソーの刃がスッと入って

いく感じが分かり、削り屑も以前より長くなっていました。しかし玉切った木の跡を見ると波打っており、左右の刃のバランスがまだ悪い様子が見られました。これを揃えるのはなかなか難しいことなので、改めて目立ては奥が深いと感じました。

午後は私の要望で「ひっぱりだこ」と呼ばれる350kgの牽引能力のある簡易集材機を動かさせて頂きました。ワイヤは6mm、エンジンをかけるとアイドリングだけで少しづつ引張ることが出来、クラッチレバーを握って白いアクセルレバーを握ると巻き取り速度が変えられるというものでした。また木材を引く張る際に引掛かりにくくするため、木に被せて引張るといったFRP製の帽子のような器具も見せて頂き、これで修了となりました。

最後に、受講者が私一人という中で熱心にご指導頂いた早川講師、和泉講師を始め、自然食のおいしい料理と食の大切さを教わり、昼の弁当まで持たせて頂いた宿泊先の山荘ミルクの方々、そして遥々長野県まで行って山仕事を学ぶという自分一人のわがままな希望を叶えてくれた家族に感謝を申し上げます。移動はキツかったのですが夢のような時間を過ごすことが出来て、本当にありがとうございました。本来なら父から学んでおくべきだったと悔いるところではありますが、森林塾で学んだことを生かし、まずは実家の周辺の手入れ、そして父と一緒に確認できなかった山がどこまでかを調べて実際に歩いてみて、手入れをするか考えたいと思います。

おわりに

ずっと暖かい日が続く、雨も多いので、今年には伊那谷の名物、「市田柿」の出来が心配されています。軒下に干しておくとカビが生えてしまうことがあるそうです。例年ならそろそろ始まるたくさん用大根や野沢菜、まだまだ多くは畑で収穫待ちの状態です。暖冬予想は嬉しいけれど、樽から取り出すあの凍った野沢菜の味わいは捨てられませんね。雪も、里には要らないけれど、山にはたくさん降ってほしいと思うのはわがまま？

投稿大歓迎。ご意見ご質問は事務局まで。
 TEL 0265-70-7065
 FAX 0265-70-7994
 E-mail: ki-hayakawa@koanet.co.jp
 sh-sakano@koanet.co.jp
 携帯:090-4463-0062(開催日)
 URL http://www.koanet.co.jp